

アナログプレイヤーの比較試聴(4)

ーモーツアルトを聴く(4)ー

1. 始めに

前報(3)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽四重奏です。

Columbia NCC-8501-N

モーツアルト 弦楽四重奏曲第17番変ロ長調「狩」

弦楽四重奏曲第15ニ短調

スメタナ弦楽四重奏団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

今回はモーツアルトの中期と後期の弦楽四重奏曲で、1972年青山タワーホールでのPCM録音です。

ZANDEN Model120 経由のLINN LP-12 と Grrad401 では、Columbia、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、初期のPCM録音の音の固さがほぐれ、アナログらしい艶も感じられます。

LINN LP-12 の再生では、初期のPCM録音ということで倍音の伸びには難がありますが、くっきり系の音です。しかしこれまでの印象に比べて、適度なディテールの再現や弦の艶も確保されています。

Grrad401 の再生では、LINN LP-12 に近い再生音で適度なディテールの再現や弦の艶も確保されています。

4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、すべて初期のPCM録音のデジタル臭さが幾分解消したことは、これまでになかったレベルです。

以上